市民のひろば

〒857-8585（住所不要）　市役所秘書課広報係（☎㉔1111）
Eメール　hishok@city.sasebo.nagasaki.jp

広報掲示板

広報紙に対してお寄せいただいたご意見などをご紹介するコーナーです。

広報紙のホチキス留めと穴あけについて、さらにご意見をいただきました

●私はこれまで通りでよいと思います。利用の仕方や保管の方法は、各自異なると考えられますから。
●本紙をホチキスで、とありましたが、私は反対意見。自分が必要と思うところをさっと取り出せ、面倒臭くないと思います。
●カラー写真が数多く使われて、高価な広報紙です。それにしては、他の方が希望した穴あけは、経費として無視できる範囲でしょう。

7月号の文字の色についてのご意見

●さわやかなブルーで、涼しげな印象に、大変好感が持てました。
●題字のブルーは、少し見にくいです。

（広報係から）
7月号と8月号は初めて青色を使いましたが、涼しげで夏にふさわしいというご意見を多く頂きました。その半面、題字が見にくいというご指摘もあり、今後の参考にさせていただきます。
9月号からは、特にお年寄りに見やすいと言われる茶色を使っています。
皆さんのご意見をお聞かせください。

毎回、広報クイズを楽しみにしています

（若葉町・奥土居（おくどい）　純子（じゅんこ）さん）
よく読んだつもりでも、また始めから読み直し、クイズの答えを探します。知らないことばかりで、勉強できます。

（広報係から）
クイズ応募時にお寄せいただくご感想は、編集する私たちにとって、大変参考になります。
皆さんとさまざまな意見を交換しながら、よりよい広報紙を目指していきたいと思います。
これからも「市民のひろば」に、どうぞご参加ください。

広報クイズ

はがきに答えと住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙へのご意見を書いて、9月23日必着でどうぞ（紙面の中にヒントがあります）。

問題①　「市民相談室」は、市役所○○階にあります。
問題②　平成○年の夏、本市は100年に1度と言われる大渇水に見舞われました。
問題③　9月29日開催の「佐世保漁港お魚まつり」には、姉妹都市の○○町も参加します。

全問正解者の中から抽選で、毎月5人に図書券をプレゼント。発表は発送をもって代えさせていただきます。

※前回の答えは、①スイカ　②1　③防災でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

募集しています

市政についてのご意見

「ご意見有用」は、市政に対する建設的なご意見をお寄せいただくコーナーです。
書面に郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を書き、「ご意見有用」担当あてと明記してください。

想い出の一枚

昭和38年の玉屋玄関前風景

下本山町　宮原亜紀子（みやはら　あきこ）さん

現　在

実家を大掃除しているとき出てきた写真で、昭和38年8月の玉屋の正面玄関と現在の市営駐車場付近が写っています。
私の両親はどちらも佐世保出身ですが、昭和35年結婚と同時に、父の仕事の関係で大阪府寝屋川市へ引っ越しました。この写真は、お盆の帰省のときに撮ったものと思われます。
昭和41年に再び佐世保に帰って来るまで、帰省するたびに、市内各地の風景を撮っていたようです。その後生まれた私には、物心ついたときから見慣れているアーケードや、親和銀行、市営駐車場の屋根、玉屋前のポストなどが写っておらず、「あれ？」と思ってしまいました。

【懐かしい佐世保の写真とそれにまつわるお話をお送りください】
○送り先　〒857-8585 市役所秘書課広報係
「想い出の一枚」担当あて

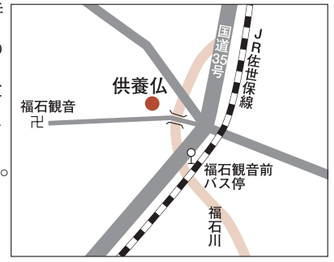
歴史散歩 446

関東大震災犠牲者供養仏

（福石町）

福石観音参道入口近くに「為東京震災遭難死亡者菩提建之」と書かれた勢至菩薩（せいし　ぼさつ）の石像があります。同じ趣旨の千手（せんじゅ）観音など数基が、奥の羅漢窟（らかん　くつ）にもあり、星野ユキ、松瀬ハルといった女性が寄進者となっています。

大正12（1923）年9月1日の正午前、マグニチュード7.9という巨大な地震が関東地方に起き、死者9万人、被災者340万人を出し、新聞には「帝都東京壊滅」などと大々的に報じられました。
軍港佐世保の鎮守府には、海軍大臣からの指令が届き、さっそく練習艦「八雲（やくも）」など3隻が救援物資を積んで出港しました。また、市民救援隊が9月10日の列車で、さらに援助物資を積んだ貨物船も数日後横須賀に向けて出港しました。婦人会有志は、佐世保駅頭で避難して来る人々を出迎え、サイダーや牛乳でもてなし、心づくしの救援品を贈りました。
幸い、佐世保関係者140人は無事が確認され、縁故を頼って佐世保入りした被災者には、市民の募金、市の拠出金合わせて6万円が、252人に贈られました。元九州大学学長の田中健藏さん(79)は生後間もない赤ちゃんで、父と共に佐世保入りし、中学生までの15年間暮らされました。
福石観音の震災遭難死亡者供養の石仏は、当時の人々の篤（あつ）かった信仰心を物語っています。



（筒井隆義）